



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 掃除から始まる心の磨き方

講演：日本を美しくする会
顧問 田中 義人氏
レポーター：赤堀 薫里

ゲスト・プロフィール

田中 義人氏

昭和 22 年恵那市大井町生まれ。昭和 44 年 7 月東海神栄電子工業株式会社を創業、社長を務める。現在、グループ会社の株式会社中山理研社長、株式会社ナカヤマ会長。

掃除に取り組んだ経過：

今から 25 年前、日本バブル崩壊により、経営の危機に陥り生き残りの道を模索する中、平成 3 年 11 月 23 日、恵那でのイベントに参加されていた鍵山秀三郎相談役と出会う。その時、鍵山相談役から「30 年間、毎朝、トイレ掃除をしてきました、お蔭で人生も会社もよくなりました。掃除を通じて、世の中から心の荒みをなくしていきたい。」との一言に衝撃を受け、翌朝から近くの神社の清掃を始める。そして境内が美しくなる都度、次から次へと善なる変化が起きることに感動し、掃除をベースにした会社改革を進める。

そして、掃除の素晴らしさを伝えるべく平成 5 年 11 月、鍵山相談役の指導の下、日本大正村にて 35 名の仲間で第一回掃除に学ぶ会を開催する。それ以降、日本を美しくする会・各地掃除に学ぶ会として、全国 124ヶ所、海外では、ブラジル、中国、ニューヨーク、台湾、ルーマニア、イタリアにも広がる。昨年まで、日本を美しくする会の会長、現在、顧問

掃除は、単に美しくするだけではなく、そのものが持っている本来の機能を呼び戻す力があります。そして、人は見ているものに影響を受けますから、日々の掃除を続けるうちに、自己の潜在能力も開花され自己成長が育まれます。

ナカヤマ・グループの各社は、業種はそれぞれ違いますが、毎朝掃除をして仕事をしています。なぜ掃除を大事にしているのか。今までの私は一切掃除をしなくてもいい、機械が動けばいい、お金を稼いでくれればいいという利益第一主義の人間でした。日本の高度成長に乗り、利益も億単位で出す会社になりました。ところが、私が利益を出し、工場もきれいになり、社員にお金を配れば



長期投資仲間通信「インベストライフ」

配るほど人間関係が悪くなりました。そうこうしているうちに日本のバブルが崩壊。楽して儲けただけに環境の変化で売り上げは急落。企業は芯がないと環境の変化でガタッと下がります。

その時、経営の本当の目的はなんだろう、いい会社とはなんだろう、体質のいい会社にするには何が大切なのか考えました。そんな時に出会ったのが、恵那のイベントに参加されていたイエローハットの創業者である鍵山秀三郎先生です。鍵山先生は「30年間トイレ掃除をしてきたおかげで、人生も、会社も大変よくなった。これを通じて世の中から心の荒みをなくしていきたい。」と言っていました。



年商 500 億円の会社の社長が自らトイレの掃除をしている。姿勢を正してお話をされるのです。私は、ほれ込んでしまい、今まで掃除なんてやったことなかったのに、この人についていこうと掃除を始めることになりました。

一つの事例ですが、ある仕事は、製造過程で液漏れやガスがすごく出ました。不良品も続出して、5時になるともう一度作り直すため、仕事は深夜まで及びます。社員は定着せず赤字が続きました。私は「掃除をやろう！」と言いましたが、社員には、「掃除なんかしたら帰宅が深夜になってしまう」と反対されました。

そこで、掃除を仕事の中に埋め込み、徹底的に機械をばらして一枚一枚掃除をしました。一番いい状態で仕事をすれば不良品が減るのは当たり前。そこで帰宅時間もだんだん早くなり、定時に帰れるようになりました。毎日掃除をするおかげで環境も整いガスも出ない。社員も辞めなくなり、赤字が黒字になりました。同時にそのことが社員の意識を変えていきます。現場を変えることが社員の意識を変え、自分たちの職場になっていくのです。

私が何も言わなくても、方針さえ出せば自分たちの仕事として捉えてくれるようになりました。私も社員も同じ方向を見てやっていけるのでこんな楽なことはないわけです。掃除は、そのものが本来持っている強みを引き出してくれます。職場のいいものを引き出し、社員の意識も変え、次の意識を作っていきます。これは改善活動そのものです。掃除を通してこのような変化を作ることができるわけです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

私たちは環境で思考も行動パターンも影響を受けます。一番私たちの持つ優れた能力は、環境を作ることができることです。それを意識して作ればいいわけです。リーダーになればなるほど、家庭でいえばお父さんお母さんがどんな環境を作ってあげるのか。子どもは親の思った通りにはなりません、環境が作った通りになります。

掃除の良さは、全てを受け入れるところから始まります。受け入れるからこそ汚れが取れます。今を受け入れて逃げないということです。逃げないで今を生かすこと。ないものを探すのではなく、今、残された条件を生かしてそこに価値を見出す。価値を見出すことで喜びが生まれます。比較ではなく自分の世界です。

自己に対する投資、自己を高めていくことになります。小さなことにも目が行くようになり、汚さなくなります。そして無意識にモノを大切にするようになります。荒れた学校へ掃除をしに行くと、大体治まってきますね。モノを大切にすることから、人を大切にすることになります。結果として自分の潜在能力を引き出していくようになります。人間は一人で生きているのではありません。みんなとのつながりで生きています。あなたが変われば周りも変わります。

講演の最後に歌舞伎町の掃除を例に挙げ、掃除は街まで変えていく事例や、掃除の活動が日本だけでなく、海外の政府や企業まで波及し、今後さらに広がりを見せていくこと。また、改善の中の掃除の存在感が大きくなっている現状をお話いただきました。



I-OWA マンスリー・セミナー座談会より 掃除から始まる心の磨き方

- 岡本 | 長年生きてると心身ともにゴミが溜っていく。それをきれいにしていくことはすごくいいことだと思います。
- 参加者 | 昔読んだ松下幸之助さんの本に「経営に息詰まったら掃除をしろ」という言葉がありました。それを読んだ時は、原点に立ち戻って、足下を見つめ直すというメッセージかなと思いましたが、今日のお話を伺って、もの作りの現場で掃除をすることは、アスリートが準備体操をすることと同じことだと思いました。松下幸之助さんは偉大な人だと改めて思いました。
- 田中 | 松下幸之助さんは自ら掃除をされていますね。政治家を育てる松下政経塾で、幸之助さんは最初に「掃除をしていますか」とお話します。やはり足下のことがしっかりできなくてはどうですかね。一時期、政経塾の募集の採用時に私達も呼ばれて行き、一緒に掃除をしてもらえないかと頼まれました。「いくらいいことを言っても、問題から逃げているような人達はだめだ。行動力のある人をとりたいたので掃除を指導してくれ」と、そんなこともありました。
- 田中 | よく海外の方が「京都の街は美しいですね。」といわれますが、京都の門川さんは「その美しさには心がなければだめだ」と言います。その心とは、昔から両隣をきれいにしたり、祇園祭の後も自分達が掃除をされたりしています。ただきれいなだけではなく、人を迎えるという心がなくてはいけない。自分達が自分達の町をつくる。日本に一つくらいこのような街があってもいいのではないかと門川さんはおっしゃって、ネオンや看板を落としました。自分達が掃除をするケア街では、土曜日に自ら自転車に来て、京大生と一緒に京都の繁華街の掃除をしています。
- 岡本 | 高橋さん(高橋陽子さん、日本フィランソロピー協会理事長)がいつもおっしゃるように寄付とも似た部分があって、「やむにやまれぬ、きれいじゃないと嫌だ」という気持ちが行動に表れるというのと、法律やルールで決められているからきれいになっていくということは違うということですよ。
- 田中 | 私たちがよく行くのは中学ですが、学校には必ず校則として掃除と挨拶をすることが入っています。後は、合唱や読書ですね。なんで日本人は挨拶をすることを大事にするのか。挨拶は人間関係を築くのに大切。掃除は場の環境。環境を作るということは、人に



長期投資仲間通信「インベストラيف」

迷惑をかけない、人に喜ばれる、もっと言えば後味のいい人生を作っていくことを昔の人は教えてくれたのではないかと思います。今はそれを考えずに口だけで挨拶をしないで。いかに挨拶をさせるか、掃除をさせるしか考えていないわけです。どんな組織でも、上に立つものがやると大体上手くいきます。やらせようと思うと、いいことほど難しい。

参加者 | 京都は室町時代から「門掃き」というものがあります。自分の家の前は100%、左右隣は一尺(30 cm)ほど掃く。お互いはそんなに侵入しませんが、少し掃いておくということが、伝統としてあるわけです。私が証券会社勤務の時代、京都支店に居た時に「かどはき隊」というものがありました。毎週土曜の朝に掃除をします。最初のうちは京都支店に来て、なぜこんなことをやらされるのだと思いました。でも考えてみると、行動経済学のなかに「道徳貯金」という考え方があります。いいことをすると、それが気持ちよくなるでしょ？お金が貯まるともっと貯めたいという気持ちがでてくるのと一緒で、いいことをして道徳貯金をすると、それを失いたくなくてもっと増やしていきたいと、自己増殖的に変革するのだと思います。



田中 | 「道徳貯金」は人間関係が変わってくると思います。いい人とつながってくる。確かに貯金というのは後からくっついてくることなのかなと思います。いい情報が集まる。

岡本 | お金は感謝のしるしといいますが、感謝の貯金箱の話をよくします。道徳貯金と似たようなものですが。結局、感謝の貯金箱に感謝がたまっていくと、そこに信用ができてきます。人からうけた感謝が貯まれば貯まるほどその人の信用度が高まる。これは会社でも同じだと思います。多くの人に感謝されている会社ほどその企業の信用は高まるし、国もそうです。多くの国民が感謝している国ほど国の信用度は高いし、発行している通貨もより信用度が高いものになる。国際間も同じ。感謝されている国ほど信用度が高い。いろいろな意味で信用がもとになって活動ができる。その原動力になっているのが感謝の心ではないでしょうかね。
田中さんの会社では、掃除をテコにして大きく経営体質が変わったわけですね。その時に辞めてしまった従業員の方はいますか？

田中 | 実はいました。従業員数が140~150人位いましたが、仕事がなくなってきました。普通リストラの対象は40歳くらいからですよ？40歳以上を集めて「何か手はないのか？」



長期投資仲間通信「インベストライフ」

と聞きましたがなかなかないわけです。その時に鍵山さんと出会いがあり、掃除を知りました。そこで土曜日を提供してもらい、掃除の為にでてくれといいました。40歳以上で掃除を始めたわけです。すると若い連中が、「俺達もこんなことをやらせられるのか」とバサッと辞められたので人件費が助かったわけです。そのおかげで40歳以上の人が辞めずにすんだ。みんなが真剣に考え出し、会社がいい方向へ動き出しました。

岡本 | スクリーニングになったわけですね。

田中 | 若い人は、今さえ、自分さえよければという人が多かったから、お金がなかったら辞めていきます。

岡本 | 40歳以上の人はあまり行き先がないから残った。

田中 | 現実的に生活が困りますから。同業者はみな40歳で切っていましたからね。私の会社はそうしなくなかったけど、知恵ができていなかった。ただあるのは休みに出て掃除をやるしかなかった。それで毎週出てきて掃除を始めると変なモノはでてくるし広がるし。

参加者 | 掃除をすることによって、実働時間が減るということはあったんですか？

田中 | 効率はよくなるし残業は減ってきますよ。

田中 | ドバイの高級官僚の人たちが私の話を聞いてくれ、家庭教育に入れていきたいといっていました。
ルーマニアで調味料を作っている会社が、製造過程で細かい粉がいっぱいあるので、一日3回掃除をするようにしたそうです。するとすごく業績がよくなり、ルーマニアでもトップになったそうです。掃除は、品質をあげる仕事として自分達がやらなくてはならないという発想ですね。ボランティアとか街がきれいになるというのではなく、経営にプラスになると気づいた時にやります。

参加者 | 経営論としては大変興味深いと思いますが、街をきれいにするのとはちょっと違う問題意識なのかなという気がします。

田中 | ただ、ルーマニアで100年続いている高校は、これを導入しようとしています。マレーシアの商工会議所の人達がこの運動を自分達もやっていきたいと打ち合わせにきます。

参加者 | ビルゲイツが、唯一長年続いている習慣は皿洗いだそうです。本当かどうか確認する方法はありませんが。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

田中 | 共同の場でお互いに何らかの手を入れることは大切です。掃除に限らず、子どもは子どもなりの何らかの役割を与える。ロボットを使うことは、当然今の時代ですからね。

岡本 | 掃除をいわゆる床を磨いたり、トイレを掃除したりという面だけでなく、自分の心の鍛錬みたいなものと考えたら、仕事の難しいプロセスをどう掃除していくのか、自分の心の中のモヤモヤとしたものの掃除や、自分の持っているポートフォリオをどう掃除していくのかということもあります。
大きな目的としては、自分の精神的な成長というものが大きいのではないのでしょうか。それは必ずしも箒を持つことだけじゃなくてもいいと思います。

田中 | おっしゃる通りです。女性は朝大変ですからね。5分でもいい、窓ガラス一枚でもいいから拭くことで自分の心が落ち着きます。本来の姿は相手の命とふれあいます。それが自分を作っていきます。わずかな時間でもつくってもらうことですね。マンネリ化もしますからね。どうせやるのであれば、このいいところを引き出してやるんだと思ってやっていますね。

岡本 | 貴重なお話をありがとうございました。